

西宮市立郷土資料館ニュース 第23号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944 電話0798-33-1298

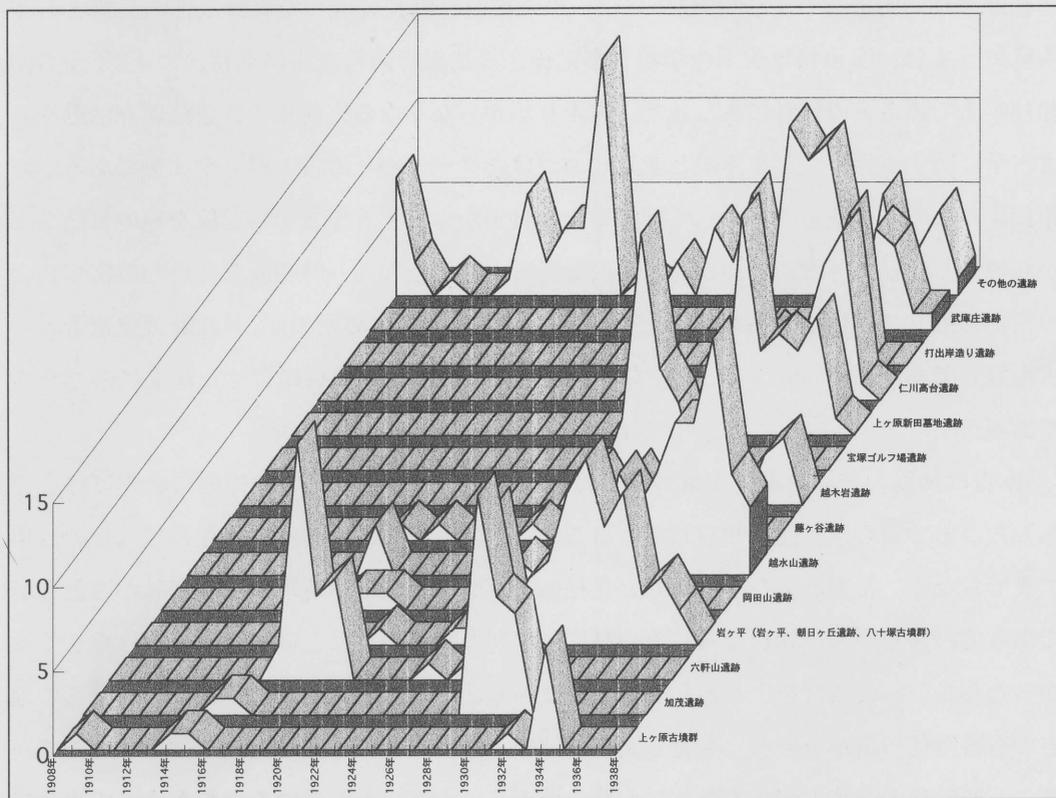


図 『考古小録』にみる紅野芳雄氏の遺跡踏査頻度

目次 CONTENTS

特別展「紅野芳雄『考古小録』」－西宮考古学のパイオニア－（合田茂伸）…2

「衛生」－近代瓦木村の伝染病対策と衛生組合－（衛藤彩子）…5

寄贈資料一覧…8

## 特別展「紅野芳雄『考古小録』」 - 西宮考古学のパイオニア -

平成10年7月25日～8月30日

合田茂伸（当館学芸員）

紅野芳雄（明治26年—昭和13年）は、のちに西宮町長に就いた紅野太郎の長男として西宮に生まれ、明治44年茨木中学校を卒業後、浪速銀行西宮支店に勤務、大正8年から昭和13年まで酒造業の経営にあたった。大正6年からなくなる直前まで、遺跡踏査活動や、考古学に関する覚書などを連綿と記録しつづけたノートが「考古小録」全3冊である。昭和15年、このノートを中心として挿図や明治41年から大正5年までの記録を他の日誌などから補筆し、紅野芳雄、吉井良尚、田沢金吾らが興したのち一時中断していた西宮史談会の復活に際し、田岡香逸らが中心となって一冊の本にまとめたのが、『紅野芳雄遺著 考古小録』である。『考古小録』の有する意義は、辰馬悦蔵が同書によせた跋文にあきらかである。

「本書は通覧して誰しも先づ気づくのは、故人が上代の遺跡遺物の探究に非常に熱心であったことであらう。従来知られてゐるこの辺の多くの遺跡に度度と足を運ばれたのは申すまでもなく、新聞紙上などに新しい発見の記事でも載ると早速現地を踏査したことも屢であつて、甚しいのは朝刊ならばその日に、夕刊ならば翌日にといふ風なものも珍らしくなかつたらしい。尚西宮を中心として山野を跋涉し、今まで殆ど知られていなかったこの地方の石器時代の遺跡を数多く発見し又、古墳などを調査するときには発掘などもせられてゐる。石器時代の遺跡の如きあまりにもその数が多いので宛もあらゆる場所がすべて遺跡であるかのごとくにさへとられる位だ。かくしてこれらの得られた成果を、直ちに巧みな挿図を付した簡明な日記体を以て記したのが本書の主要な部分である。これ等の記事に載っている遺跡の多くは君自ら親しくその地を踏んだものであり、遺物の多くは君自ら採集したものであり、しかも記されたのは調査、採集の直後である。即ち所謂一等史料に他ならない。掲載されている遺跡や遺物の地域・種類・数量などが左程広くも多くもなく、記述また簡単に過ぎないけれど、学的価値の存するのはこの点にありと思はれる。殊に日一日と遺跡の湮滅に帰し、遺物の散佚する現今当地方の如きに於いては、本手記の記事によつてのみ独りありしを偲び得るものすら乏しくはない。今日既に然り、況や明日をや。本書は少くも西宮を中心とする地方の上代の考古学的研究をなさんと志す人人にとっては、よ

い手引草となり或は昔談りをして呉れるものといふべきである。」

すなわち、『考古小録』からみた紅野芳雄の活動は、採集資料との対象が可能な点、西摂地方一帯の土地開発がいちじるしくなる直前の遺跡の分布状態を記録した点、今日しられる当地域の重要な遺跡を発見している点で、他に類をみない重要性がある。たとえば、本書は、平成9年に6度目の版をかさねた『西宮市埋蔵文化財遺跡分布地図および地名表』の骨格となっているのである。「考古小録」に記述のある重要な遺跡としてつぎのようなものがある。破壊途上にある状況をしるした上ヶ原古墳群、採集活動中、土砂採取工事によってほとんど破壊されてしまった六軒山遺跡、現在その位置や範囲が不明な越木岩遺跡、宝塚ゴルフ場遺跡、上ヶ原新田墓地遺跡、岡田山遺跡、近年の発掘調査によってその内容があきらかにされつつある仁川高台遺跡、打出岸造り遺跡、武庫庄遺跡などである。

「考古小録」全3冊およびその姉妹版ともいふべき「考古図譜」「考古雑録」には刊本で割愛されているおおくの挿図がある。それらは、遺存する採集遺物との照合が可能な原寸大の図や、遺物の散布状況から遺跡の範囲が推定できる略地図など、「考古小録」のさらなる理解と当地域の考古学研究に不可欠である。

『考古小録』をよむと、紅野芳雄の踏査活動にいくつかの傾向がみいだせられる。採集活動には、2度のピークがある。大正7年前後と昭和9年前後である。大正7年ころには西宮地方においてくりかえし踏査した遺跡は六軒山遺跡だけであり、おおくは、三島、中河内の遺跡、あるいは東京、奈良の皇室博物館や東大寺など、はばひろい関心のあったことが察せられる。その後一度踏査回数は減少するが、昭和初年にはふたたび増加し、昭和9年には47回の踏査記録がある。岩ヶ平（岩ヶ平遺跡、朝日ヶ丘遺跡）、越水山遺跡、上ヶ原新田墓地遺跡、仁川高台遺跡、武庫庄遺跡など当地方の遺跡に集中しており、遠方への踏査記録はない。『考古小録』をみると遺跡踏査活動は当初ひろい地域を対象とし、しだいに当地方の主たる遺跡につよい関心をよせるようになったことがわかる。

紅野芳雄は昭和13年4月25日になくなっているが、「考古小録」にしるされた最後の踏査記録は4月20日で、22日に筆記されたものという。石器は、百貨店商品券用の桐箱に厚紙と綿でつくったマットをしつらえ、糸でしばりつけて保管し、土器は部屋のガラスケースに陳列していたという。この石器保管ケースは奥様の手製であった。採集遺物の点数はもうすこしで1000点に達するほどであった。昭和20年の空襲ののち、石器および金属器の一部のみが西宮市鞍掛町の自宅焼け跡からひろいだされた。土器はそのときにすべてうしなわれた。ただ、「考古小録」ほか数冊のノートと日誌は疎開していたため焼失をまぬが

れたという。

紅野芳雄が採集した遺物の大部分は西宮市に寄贈され、郷土資料館で保管されている。没後60年をかぞえる本年、彼の足跡や踏査した遺跡の現状を、採集遺物、遺品、その後の調査による出土遺物などを陳列して、功績を顕彰しながら、市内の遺跡の現状を展示する。

展示に際して、紅野芳雄氏のご子息紅野安雄氏をはじめ、芦屋市教育委員会、関西大学博物館、京都大学総合博物館、辰馬考古資料館ほか、おおくのかたがたのお世話になった。しるして感謝の意としたい。

#### 展示の概要

期間：平成10年7月25日（土）から平成10年8月30日（日）まで

時間：午前10時から午後5時まで

主催：西宮市立郷土資料館

場所：西宮市立郷土資料館 1階展示室

料金：無料

おもな展示予定資料：

紅野安雄所蔵紅野芳雄関係資料（考古小録原本（第1冊～第3冊）、考古図譜、考古雑録、日誌、採集遺物、遺影）

紅野芳雄採集（郷土資料館所蔵）考古資料（西摂地方採集）

西宮市内遺跡発掘調査出土資料（津門稻荷山古墳、仁川高台遺跡、具足塚古墳、仁川五ヶ山古墳群、越水山遺跡、関西学院構内古墳、岡田山遺跡）

芦屋市教育委員会所蔵資料（芦屋廃寺、岩ヶ平遺跡、朝日ヶ丘遺跡）

関西大学博物館所蔵旧本山考古室西宮市内遺跡出土資料

京都大学総合博物館所蔵西宮市内遺跡出土資料

辰馬考古資料館所蔵津門稻荷町出土資料

# 「衛生」—近代瓦木村の伝染病対策と衛生組合—

衛藤彩子（当館嘱託）

---

## 1. はじめに

郷土資料館では、いま明治以降の近代文書を整理中である。それらは瓦木村の大字であった上瓦林村に関するもので、村内行政の変遷を知ることができる貴重なものである<sup>(1)</sup>。

その中に、明治23(1890)～28(1895)年の通達類から一部を集めて『衛生』という表紙をつけた綴りを見つけた<sup>(2)</sup>。この綴りからは、村内行政で「衛生」が重要視されていたことが窺えるが、詳しいことは『瓦木村誌』にも明らかではない<sup>(3)</sup>。

近代日本では伝染病対策は重要な問題であるが<sup>(4)</sup>、町村単位では、どのような予防対策がとられていたのだろうか。前記の綴りを中心に、その一端を紹介したい。

## 2. 瓦木村の衛生状態

『武庫郡誌』には、大正時代の瓦木村の衛生状態は、村民の衛生思想には幼稚なところがあるものの、多くが農業を営んでいるために丈夫な体を持っており、飲料水には井戸水を使用していたが水質は良好であったと記されている<sup>(5)</sup>。そのためか、明治37(1904)～大正8(1919)年の平均死亡率は武庫郡で最小である。

それでも伝染病は完全に防げるものではない。その予防対策には、大きく分けて種痘と清潔法の2つが挙げられる。

## 3. 種痘

伝染病の中で天然痘については、明治以前から種痘が行われていた。西宮市内での最初の記録は、明治3(1870)年のものである<sup>(6)</sup>。しかし、『種痘取調帳』(明治9(1876)年)には、明治2年に種痘を受けている者が若干みられる。同4年には、除痘開館につき、希望者は小児の名前を届け出るよう、尼崎県社務所より出された通達もあることから、尼崎や大阪などで種痘を受けたのだろう。その後は定期的な種痘が毎年春と秋に行われた。

しかし、それは必ずしも徹底せず、種痘実施日に出頭しない者がいた。その理由としては、農事繁忙の時期であるが必ず出頭するように、と通達の中に書かれていることから、一部の村民には農作業の人手を減らしてまで行く必要はないという意識があったのだろう。

このような状況からか、定期的な種痘にも拘わらず流行は防げなかった。その時は、定期実施日を臨時に繰り上げたり、既に終えた者でも希望者には種痘をした。

#### 4. 清潔法

天然痘と違い、コレラを始めとする消化器系の伝染病については清潔法が行われた。清潔法とは主に毎年春と秋に村内をあげて大掃除を行うことで、各大字ごとに行っており、実施日の前には、それぞれの日取りが通達された。

しかし、定期的なものとは別に、伝染病流行による臨時の清潔法も多くみられた。

#### 5. その他の伝染病対策

伝染病の予防には、清潔法以外に食物についての注意も必要であった。明治28(1895)年に武庫、菟原両郡がコレラ流行地となったため、県令42号などで食物に対する注意を促しているが、特に飲食店や多人数が集まる場所に対しては厳しく、祭礼、劇場に群集することも停止した。露店でのスイカなどの販売も禁止し、違反者には罰金が科せられた。

その他、この年は健康診断に始まり、検疫部の誕生、伝染病患者互報函の設置がみられる。また、広田神社は疫病除御祓大麻を全戸に配与している。

村内に患者が発生した場合は、衛生委員または警察官吏が、その家の消毒をするとともに交通を遮断し隔離するか、または病院に隔離した。瓦木村へは、近隣の伝染病の情報が、発生した地域、患者数、病状とその経過について、逐一伝えられた。しかし、隔離が対策の中心となっていたため、患者の住所、姓名までもが、広範囲に伝えられることになった<sup>(7)</sup>。

#### 6. 衛生組合

伝染病対策は瓦木村から各大字に指示が出され、また、消毒薬などは瓦木村が一括で購入していた。このような衛生事業には、その速やかな実施のための組織が必要であった。

村の衛生組織として最初に史料で確認できるのは明治23(1890)年の瓦木村衛生主務吏員、上瓦林村衛生委員である。同年には「瓦木村伝染病予防方法」が交付されており、それについての史料はないが、同26年に更正された時のものは残っている。同年はコレラ、赤痢、腸チフス、天然痘が流行しており、23年の予防方法では対処できず、臨時措置として臨時衛生委員を設けたのである。

それと同時に、「伝染病予防心得書」の趣旨を村民に周知させることとしている。その心得書では、伝染病がいったん発生すれば、その患者、家族に止まらず、全国的な災害となること、それを防ぐには郡市町村の自治体ごとに予防事業を行う必要があることを説

いている。さらに、予防方法の徹底には衛生組合を設けて、組合中は互いに警戒し、助け合うのが良いとしている。

瓦木村の衛生組合の正確な結成時期は不明だが、村を2区に分け、各区に組長、副組長と委員若干を置いていた。ちなみに西宮町では明治30(1897)年に結成されている<sup>(8)</sup>。

## 7. おわりに

最後に、大正時代以後の衛生組合の変遷について触れることで、結びとしたい<sup>(9)</sup>。

西宮市の衛生組合は、昭和2(1927)年に衛生組合連合会が設立される。同13(1938)年の日中戦争勃発後は、県から挙国一致の体制をかためるため隣保組織を奨励する指示があり、市は衛生組合に「隣の会」の結成を依頼し、これが組織される。同16年には町内会、隣組の新しい隣保組織ができ、旧来の衛生組合は町内会と一致させるために解散し、町内会とともに新しい衛生組合が結成される。瓦木村は同17年に西宮市に合併された。

明治20年代に町村単位で伝染病予防を行う必要性から組織された衛生組合は、定期的な清潔法などを続ける一方で、昭和10年代には求められる役割にも少なからず変化がみられ、町内会などの隣保組織の一つに組み込まれていったのである。

## 註

- (1) 岡本家文書(岡本紀士生氏寄託)。本稿でとりあげる史料は、特に断りのない限り、全て岡本家文書である。
- (2) この綴りでは牛疫も対象になっているが、本稿では人の伝染病に限って述べる。
- (3) 『瓦木村誌』(1952年、瓦木村誌編集委員会)
- (4) 小野芳朗『<清潔>の近代』(1997年、講談社)、阿部安成「伝染病予防の言説—近代転換期の国民国家・日本と衛生—」(歴史学研究会『歴史学研究』686号、1996年)
- (5) 『武庫郡誌』(1921年(1973年復刻)、武庫郡教育会)
- (6) 『西宮市史』第3巻(1967年、西宮市役所)。なお、市史の記述は『西宮町誌』(1926年(1975年復刻)、西宮町教育会)による。
- (7) 同(4)
- (8) 同(5)(6)
- (9) 同(6)

寄贈資料一覧（平成9年7月～平成10年4月、敬称略）

---

毛布（松本洋子）、愛国婦人会会員メダル・和装裏地用毛斯（吉田達子）、鋸類・斧類・釘・金物類・槌類・釘抜類・ドライバー類・締付具・ノミ類・錐類・鉋類・ヤスリ類・砥石・定規類・釘シメ・野引・墨壺・墨サシ・電気ドリル・締め木・ハケ・ハサミ・削る道具類・大型ホッチキス・シリンダー外締錠・アルベット・アルミ箱・長木箱・伸子張り道具など（寺内ちよ子）、衣類・スゲ笠・番傘・ワラジ・洗濯道具・裁縫道具・結髪用タラエ・剃刀・台所用品・ヤカン類・鍋・煙草盆類・羽釜・酒器・膳・椀類・弁当箱・チャブ台・座卓・蔵の鍵・切手盆・照明道具・暖房道具・枕・蚊帳・鍬・鋤・田植用縄・田植定規・カゴ・除草用具・鎌・刈取機・押切・穴つき・牛糞出し・カラサオ・横槌・箕・フルイ・手カギ・米サシ・俵締め器・千歯こき・脱穀機類・穀物すくい・横杵・ジョウゴ・筵カゴ・チンチョ・モンドリ・飼育用具・牛のワラジ・牛の鞍・綿糸用具・俵編み機・ムシロ編み部品・大工道具・カゴ・カバン・トランク・担い棒・ラジオ・オモリ・算盤・桿秤・枴類・鳶口・輪袈裟・ネズミトリ・薬品類・掛け時計・輪回しの輪・観光パンフレット・絵ハガキ・竹製品など（厩松昌純）、椀類・飯椀・餅箱・飯櫃・タバコ盆・膳類・シャモジ・湯トウ・盆・弁当箱・漆器・矢立・天秤ばかり・竿秤・分銅・火消し装束・手あぶり火鉢・印籠（小西久嘉）、マント・角帯・ゲートル・防空頭巾・風呂敷・電気ヤグラアンカ・風呂のイス（正木久恵）、天秤ばかり・携帯用箸・煙草道具・煙草入れ・キセル・書冊『西国順禮細見大全』・弁当箱（近藤淑子）、滑車（塚本文子）、六甲苦楽園中村伊三郎から木場武雄あて書簡（久家美枝子）

ご寄贈ありがとうございました。